

厚鋼板の板厚公差(JIS G3193(2008))について

■板厚公差について

SS 材・SM 材・SMA 材等の厚鋼板の板厚公差は JIS G3193 表 5(下表)で規定されております。
この表は、一概に±何mmと云うのではなく、板厚・母材の幅によって変動します。これは、同じ 25 mm でも±0.7 mm～±1.2 mm まで母材幅によって許容差がある事に注意が必要と云う事です。但し、建築構造用圧延鋼板(SN 材)や圧力容器用鋼板(SB 材・SPV 材・SGV 材等)には適用されません。

■使用用途計測位置について

JIS では、圧延のままのミルエッジ(耳付鋼板)の場合は幅切断予定線より内側の任意の位置の点。カットエッジの鋼板の場合はその縁から15mm以上内側の任意の点とするになっています。

■橋梁用の板厚公差について

道路橋示方書(平成14年3月発行)では、「JIS G3193 を適用しかつ、(-)側の許容差が公称板厚の5%以内にならなければならない。」とあり、比較的薄い板厚(16 mm 以下)では特に注意が必要です。

表5 厚さの許容差 JIS G3193(2008)

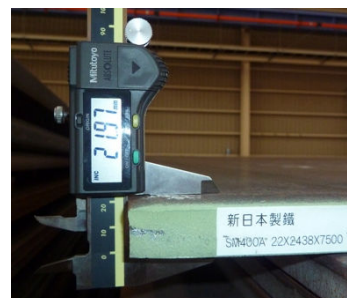
厚さ		幅						単位 mm	
		1600 以上		2000 以上		2500 以上		3150 以上	
		1600 未満	2000 未満	2500 未満	3150 未満	4000 未満	5000 未満		
4.00 以上	5.00 未満	±0.45	±0.55	±0.55	±0.65	-	-		
5.00 以上	6.30 未満	±0.50	±0.60	±0.60	±0.75	±0.75	±0.85		
6.30 以上	10 未満	±0.55	±0.65	±0.65	±0.80	±0.80	±0.90		
10 以上	16 未満	±0.55	±0.65	±0.65	±0.80	±0.80	±1.00		
16 以上	25 未満	±0.65	±0.75	±0.75	±0.95	±0.95	±1.10		
25 以上	40 未満	±0.70	±0.80	±0.80	±1.00	±1.00	±1.20		
40 以上	63 未満	±0.80	±0.95	±0.95	±1.10	±1.10	±1.30		
63 以上	100 未満	±0.90	±1.10	±1.10	±1.30	±1.30	±1.50		
100 以上	160 未満	±1.30	±1.50	±1.50	±1.70	±1.70	±1.90		
160 以上	200 未満	±1.60	±1.80	±1.80	±1.90	±1.90	±2.10		
200 以上	250 未満	±1.80	±1.90	±1.90	±2.00	±2.00	±2.20		
250 以上	300 未満	±2.00	±2.10	±2.10	±2.20	±2.20	±2.50		
300 以上	350 未満	±2.10	±2.30	±2.30	±2.40	±2.40	±2.80		

■当社のスペック

橋梁用に限らず、当社が発注する厚鋼板は新日鉄との協定仕様により板厚が厳しく管理されております。

※参考資料

- ・JIS ハンドブック鉄鋼Ⅱ 2011
- ・道路橋示方書・同解説 I 共通編 II 鋼橋編 平成 14 年 3 月版



*本資料は(株)石原商事の社内文書につき記載内容による社外への一切の責を負わないものとします。

*一部に当社としての解釈・見解及びスペックが記載されております。正式な文面は参照資料をご覧ください。